

10年ほど前に義父・古城晋の後を継いで秀溪園の管理者になりました。利用者さんは、農作業やクッキー作りなど、様々な仕事に挑戦しています。ところが今、新型コロナウイルスによって生産物の販売イベントなどが行えなくなっていました。秀溪園だけでなく、市内の各就労支援施設でも売り上げに影響が出始めています。市内の直売所などで利用者さんが作った商品を見かけたなら、ぜひ応援してください。

秀溪園は、「地域と共に歩む」ことを大事にしています。義父は「障がい者が地域で生き生きと輝く、共生社会をつくりたい」と言っていました。毎年行っている「秀溪まつり」で利用者さんと地域の方々が楽しそうに交流しているのを見てみると、地域との一体感が実感できてうれいす。義父の目指していた共生社会の実現に向けて、利用者さん、地域の皆さん、職員と心を



秀溪園創始者
故 古城 晋 さん

一つにして、歩んでいきたいと思っています。

小学校の教員であった古城晋さんは、障がい児も皆と同じように学校で学ぶことが大切だと考え、旧武蔵西小学校に県内初の特別支援学級を設置しました。しかし、受け持った障がい児の卒業後を追ってみると、その多くが家に閉じこもっていることに気がきます。「障がい者が社会に参加するには、働く場所が必要だ」と痛感した古城晋さんは、教員退職後の昭和57年に市内初の障がい者就労支援施設「秀溪園」を開設。市の障がい福祉に多大な功績を残されました。



施設で作ったお菓子類を「大分の空むさし」などで販売しています。



古城さんは、利用者とのコミュニケーションを大切にしています。



秀溪園 管理者
古城 芙美枝 さん

共生社会の実現のため
地域と共に歩んでいく

教え合い
助け合いながらする
作業が楽しい

自分を肯定し
輝いてもらいたい

輝くピアホーム 施設長
川野 公香 さん

輝くピアホーム 利用者
坪井 勝彦 さん

坪井さん
輝くピアホームは職員さんがとても熱心なので、ここ5、6年ですごく忙しくなりました(笑)。でも、みんなが教え合い、助け合いながら作業をするのは楽しいです。そして、作業はやればやった分だけお金がもらえるので、やる気になりますね。

私はこの施設で一番の古株なので、新しい利用者が来たら自分から積極的にあいさつをしています。誰でも最初は不安でいっぱい。優しく話しかけることで、早く施設になじめるようにしてあげたいです。

川野さん
利用者さんが作った商品は、職員が積極的に営業して販路を拡大しています。営業時は「障がいのある方が作った商品です」とはあえて言いません。一般企業に負けない、質の高い商品を作るのが、利用者さんの工賃アップや自信につながります。

私たちの施設は複数人で行う共同



共同作業では、各自が得意なことを生かせます。



施設で製造したポップコーンは大好評。

作業が多いので、仕事はみんなで助け合うことを大切にしています。仕事の工程を分担すれば、どんな方でも必ずできる作業があります。利用者さんには、誰かの役に立つ喜びを感じてほしいですね。そして、「やればできるんだ」と自分を肯定し、輝いてもらいたいと思っています。